

白神岬の野鳥の渡り



白神から竜飛を望む

北海道の最南端、松前町白神岬で初めて標識調査のお手伝いをさせて頂いたのが、8年程前のこと。それから僅かながらの回数ではありますが、北海道の南の玄関：白神岬で野鳥の渡りを堪能し、微力ながらお手伝いをさせて頂いています。

今回は「松前・白神鳥類観測ステーション」での標識調査から明らかになってきたことを白神岬の研究報告（林 吉彦・2001・白神岬の鳥類観測）とともに紹介したいと思います。

(北海道支社自然環境研究室 嘉藤慎譲)

北海道の南の玄関 白神岬

島国である日本は、周りをぐるりと海に取り囲まれているため、多くの野鳥たちは、南北に突き出たいくつかの岬を出入り口として、春には北上し、秋には南下しています。つい最近まで留鳥（季節的な移動をしない鳥のこと）といわれ、長距離移動しないと思われていたシジュウカラやヤマガラなども標識調査によって、渡り鳥の仲間に入ってきました。

このように、野鳥の多くは定期的に長距離の移動（渡り）をしており、コースや時期もある程度決まっています（図-1）。十数年間の標識調査から、白神岬（図-2）はその代表的な渡りルートであることが明らかになってきました。

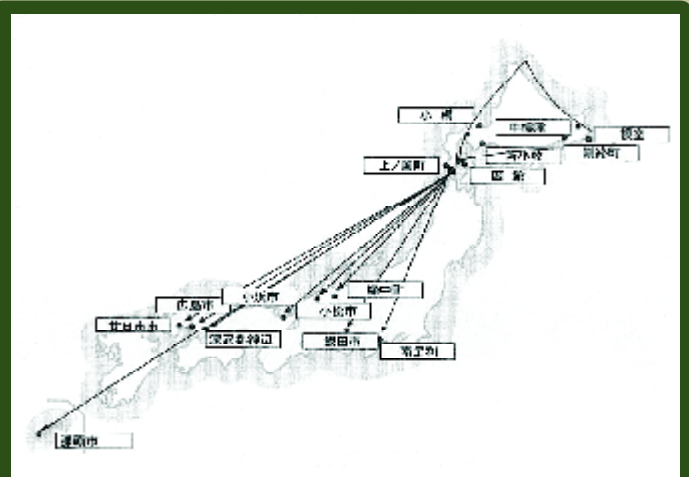


図-1 鳥たちの通り道白神岬

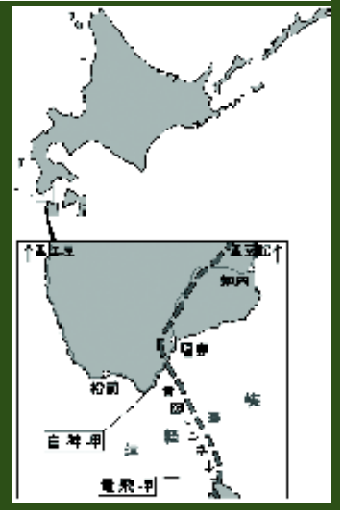


図-2 白神岬周辺地図

鳥類標識調査 (バンディング) とは!?

鳥類標識調査（バンディング）とは、鳥類の生態や環境との関わりを解明し、保護に役立てるため、環境省の委託により財団法人山階鳥類研究所がセンターとなって全国のボランティア調査員の協力で行われている調査のことです。調査は、鳥への負担や影響を極力少なくし、安全に関して最大限の努力を払い、かすみ網、わな、手取りなどの方法で野鳥を捕獲し、国名、番号などを刻印した金属製の足輪を装着して放鳥します。標識された鳥が再び捕獲されることにより、移動ルートや年齢などの知見を得ることで保護に繋がっています。



クマガタ



ヨタカ

北(繁殖地)を目指す春の渡り

岬周辺の山々が残雪に覆われる3月末、野鳥たちの北帰行は始まっています。北海道を越え、更に北に向かうカシラダカ、北海道各地で子育てをするウグイス、シジュウカラ等が次々と姿を現します。繁殖地に向かう野鳥たちは、海峡を越えた疲れを癒す間もなく目的地に向けて飛んでいきます。

早春の渡りの時期で着目すべきは、オスとメスの比率です。繁殖地の遠

いカシラダカなどはオスとメスの比率に大差は見られませんが、北海道南部で繁殖するウグイスやアオジなどでは大きな違いが見られました(表-1)。

繁殖地が近い種は、自分のなわばりを確保するため、まずオスが渡ります。オスが姿を見せ始める頃は、まだ餌も少なく、鳥殺しと呼ばれる時

期遅れの雪に見舞われることもあります。その厳しさを乗り越えたオスだけが、メスを迎えることが出来るのでしょうか。

表-1 繁殖地が近い種のオス・メスの比率

調査期間	ウグイス		アオジ		シジュウカラ	
4/08 ~ 4/19	21	0	9	0	5	0
4/29 ~ 5/14	16	79	9	15	8	6

(林 2001より引用)



写真1: センダイムシクイ

紅葉が山頂から徐々に平地を目指して降り始める秋、南へ向かう野鳥の渡りは最盛期を迎えます。野鳥の渡りのなかでもハクチョウやマガン等の大形の鳥の渡りは、「冬の使者到来」や「第一陣北に飛び立つ」などと、季節感を伝えるニュースとして取りあげられますが、野鳥の渡りがいつ頃から始まっていつ頃終わるのか、実はよくわかっていませんでした。しかし、最近になって、繁殖を終え、7月末には早くも南に向かう数種の野鳥がいることが、白神岬での標識調査の結果から明らかになってきました。

/// 南(越冬地)へ向かう秋の渡り ///



写真2: 足輪(エゾムシクイ)

ウグイスの仲間ですズメより一回り程小さく、体重が僅か10gほどのセンダイムシクイ(写真1)とエゾムシクイ(写真2)という鳥が、秋の渡りの先陣を担っていたのです。この2種は5月の連休が終わる頃、全道各地の広葉樹林に渡ってきます。この鳥が、7月の末には南へ向かうために、白神岬に姿を見せ始めるのです。この調査が行われるま

では、センダイムシクイなどが目立たなくなったのは、繁殖期が終わり、オスがさえずりをやめたからで、渡りにはいるのは9月になってからだろうと考えられていました。しかし、驚くべきことに、センダイムシクイなどは3ヶ月も満たない期間でヒナを育て上げ、越冬地を目指していました。

/// 次の世代に向けて... ///

白神岬には時折、小学生や近くの子供たちが遊びに来ます。野鳥にふれることの少ない子供たちは、最初はおっかなびっくりですが、野鳥の持ち方を教えると優しく野鳥をつかみ、その軽さに驚きます。このとき私が教えられたのが、野鳥の胸に耳をあて、鼓動を聞くことでした。野鳥の中でも、スズメより小さなものは僅か10グラム程の体重しかありません。そんな野鳥の小さな小さな心

臓は、耳に当てると、温かく、発動機のような心地よい鼓動が感じられます。そんな驚き子供たちの中に、いつまでも残ってくれたらいいなと思います。そして、生命の温かさ、小さな命の生きる強さをちょっとでも感じてくれたら、自然や野鳥は今よりもっと身近に感じられるのではないのでしょうか。

晴天の夜、白神岬には満天の星が夜空を描きます。野鳥は身の危険の少な

い夜もまた、南を目指して海を渡っていきます。上空を渡る野鳥たちの鳴き声は一晩中続き、まるで満天の星が鳴き交わしているかのように聞こえます。

秋には色づいていた岬周辺の山々も、11月になると、気の早い冬将軍が雪を積もらせませす。賑やかな春の渡りが始まるまで、岬は真っ白な雪と波に包まれ静寂の時を過ごします。